

オリザニア記者体験記事

MOP グリコンドウ

オリックスの敏腕プロデューサー花木氏が創設した MOP（最も大阪っぽいプレイヤー）に選ばれた近藤大亮選手のオリザニア特別記者会見が行われました。記者体験に参加した皆さんは、誰が来るかも聞かされておらず、緊張の面持ち。ついには緊張のあまり帰りたいと言いつつ出陣まで。カメラマン体験の皆さんも記者会見場に入り、準備万端。

近藤選手が現れると、皆さん大興奮。記者からは矢継ぎ早に質問が飛び、近藤選手は丁寧に一つ一つ記者の目を見ながら自分の言葉で質問に答えられており、非常に好印象。

そんな人柄の良さ見た目から、最も大阪っぽいプレイヤーというよりかは最もオリックスっぽいプレイヤーという印象でした。

最後は最も大阪っぽいプレイヤーということで、大阪っぽいポーズであるグリコのポーズを照れながらして頂き、会見が終了しました。

そんな試合開始 2 時間前に模擬記者会見に参加して頂いた近藤選手ですが、まさかまさかの最終回に登板。先ほどまで、目の前にいた人が投げていることが非常に不思議でした。一昨日の雪辱を晴らし、見事に 3 人で試合を締めました。

今日の MVP は近藤選手ではありませんでしたが、オリザニア特別記者会見に参加した人の MVP は間違いなく近藤大亮選手でした。今思えば、グリコのポーズは勝利の V を表していたのかもしれませんが（笑）近藤選手、本当にありがとうございました！

理想を追究する吉田正尚

試合前のバッティング練習をベンチ前で見学させていただきました。初めてグラウンドに降りて、間近で見学したため、記者ということのを忘れ終始浮足立っていました。古巣日本ハムの選手と談笑する福良監督や、試合前の調整を行う、大前一樹アナウンサーやリポーターの竹村美緒さんの姿も見ることができました。

そんな中でも一番印象に残ったのが、吉田正尚選手でした。

他の選手はバッティング練習が終わると、そのままバットを持ち、ベンチ裏へと引き上げていったのですが、吉田選手は、バットを構えたまま納得のいっていない表情でベンチ裏へと引き上げました。なんとなくで終えず、納得いくまで考えるその姿勢を見て、オリックスの未来の明るさを感じとることができました。

スポーツ記者という仕事

オリザニア特別記者体験前にスポーツ報知のオリックス担当記者である原島さんにお話を聞かせて頂きました。記者の一日から、記者の苦勞について等を聞かせて頂きました。

オリザニア記者体験記事

中張 雄太

印象に残ったのは、敗戦原因となった選手へ話を聞くことへの難しさについてでした。やはり、打たれたり、ミスをした選手というのは、落ち込んでいたり、イライラしていたりするもの。そのような状態の選手へ話を聞くのは気を使うようで、聞き方には非常に気を付けるようです。「今日の審判はコース狭かったですねー」とか「あの一球だけでしたねー」等、悪いことは言わず、良い点に着目して話すとのことでした。

もう一つ印象に残ったことは、選手の間模様を伝えるということでした。試合以外の記事ではそのようなところに重きを置いているようです。

是非通勤、通学中に新聞で選手の間模様を見て欲しいとおっしゃられていました。どのような人なのかを知らばますます選手に興味を持ち好きになるでしょう。

皆さんもぜひ朝は新聞を手に取り、オリックスの選手がどういう人なのかチェックし、オリックス愛を深めましょう！

オリザニア球団記者
中張 雄太